

私たちは未来からスポーツを託されている

スポーツの未来を拓く新たな資源の可能性を探る（長期的かつ持続性の視点から）

勝田 隆

日本のスポーツは、今、新しい時代を迎えようとしている。私たちはその歴史的な時代の真っ只中にいる。

2011年に「スポーツ基本法」が誕生し、「スポーツ庁設置の検討」も本年より本格的に開始された。2019年には、「ラグビーワールドカップ」が日本で開催され、そして、2020年、「オリンピック・パラリンピック東京大会」が開催される。

この国に生まれたスポーツ関係者が、かつて経験したことの無いほどの大きな取り組みに関われるチャンスで、私たちは今、手にしている。

このような歴史的な取り組みをとおして、数十年後(2021年以降)、どのような「スポーツの風景」が、私たちの国にひろがっているのか。

私は、その視点を大切に、積極的かつ建設的に関わっていきたくと考えている。

1. チーム・アントラージュ

多様な立場の専門的かつ良識的な「目」と「連携」が、競技者やコーチの質を高める

□アスリート・アントラージュ(entourage)

競技者・チームを取り巻く関係者(アスリート・アントラージュ)であるコーチや家族、マネージャー、トレーナー、医師、教員等が互いに連携を図ることにより、コーチングの現場に多様な関係者の目が入る体制を構築し、不適切な言動を防ぐとともに、仮に問題が発生した際にも迅速に解決する取組を進めることが必要。

(スポーツ指導者の資質能力向上のための有識者会議. 文部科学省. 2013)

□コーチング

現在、スポーツやビジネスにおいて、広く用いられている「コーチ coach」という言葉は、15世紀にハンガリーの Kocs という村でつくられていた「四輪馬車」を語源としている。「スポーツを指導する人」のことをコーチと呼ぶようになったのは19世紀の中頃(英国において)になってからだ。私は、この言葉の由来から「コーチング」という営みは、単にアスリートの技術や体力向上に関わる営みにおいてのみ用いられるものではなく、(広義な意味において)競技者の目的達成ための支援活動においても、用いられるべきものと解釈している。

2. ゲームズ・メーカーズ

「ささえる(サポート)」から「関わる(コミット)」へ

□ラグビーやサッカーなどさまざまな競技の発祥国としてスポーツを愛してきた英国で開催されたオリンピック大会(2012ロンドン)では、約7万人ものボランティアが世界中から集まったと報じられている。彼らは「ゲームズ・メーカーズ」とも呼ばれ、大会に向けた街の美化や観客の誘導、競技運営などさまざまな場面で活躍した。マナーの悪い観客に対してもていねいに怯むことなく対応する場面を、私は現地で幾度となく(競技会場で)目にした。

3. ゴールド・イベント・シリーズ

□英国はロンドン五輪・パラリンピックのインフラなどの効率的な活用や、若者へのスポーツ機会の提供をさらに促進することを目的として、国際大会開催の招致活動を戦略的に進めている。この「ゴールド・イベント・シリーズ」と呼ばれるプログラムによって、2016トラック自転車世界選手権や2018女性ホッケーワールドカップ(どちらもオリンピック・パークで開催)の招致に成功したと報じられている。